

麻しん風しん混合ワクチン接種についての説明書

麻しん風しん混合ワクチンの予防接種は、法律に基づいて受ける定期接種です。この説明書をよく読んで理解し、十分に医師から説明を受けたうえで予防接種を受けてください。

〔接種対象年齢〕

第 1 期：接種時点で大牟田市の住民である生後 12 か月～24 か月未満の者

第 2 期：接種時点で大牟田市の住民である 5 歳以上 7 歳未満の者であって、小学校入学前の 1 年間

〔接種スケジュール〕

1 回あたり 0.5ml を皮下に接種します。

第 1 期：生後 12 か月～24 か月の者に 1 回

第 2 期：5 歳以上 7 歳未満で小学校入学前 1 年間（4 月 1 日～3 月 31 日まで）の者に 1 回

1 予防する病気

（１） 麻しん

主な初期症状は発熱、咳、鼻水、眼が赤くなる、目やになどです。一旦下がったようにみえた熱が再び 39 度以上の高熱となりますが、この頃に口の中を見ると白いブツブツ（コプリック斑）が見えます。その後、皮膚に発疹が出現し、1～2 日のうちに全身に広がります。合併症がなければ 7～10 日ほどで治りますが、1000 人に 1 人程度の割合で脳炎を合併することがあります。また、麻しんが治ってから数年～10 年経ってから発症する亜急性硬化性全脳炎は極めて重篤な病気です。

（２） 風しん

発熱、発疹、首の周りや耳の後ろのリンパ節のはれが主な 3 つの症状です。合併症としては、数千人に 1 人の頻度で、脳炎や血小板減少性紫斑病を起こします。また、妊娠 20 週頃まで（特に妊娠初期）の女性が風しんウイルスに感染すると胎児にも感染して、出生した赤ちゃんが先天性風疹症候群という、生まれつきの心臓病、白内障、難聴などを症状とする重い病気を発症することがあります。

2 ワクチンの有効性

1 回接種で 95%以上の人が免疫を獲得します。2 回接種で 99%以上の人が免疫を獲得します。極めてまれに接種後に麻しんや風しんにかかってしまうことがありますが、未接種でかかった場合に比べると症状は軽く、周りの人への感染力も弱いです。

3 ワクチンの副反応

接種後 5～10 日後に発熱がみられる人が 2 割程います。時に 38 度以上の高熱となり、まれに熱性けいれんを起こすことがあります。そのほか、接種した部位の腫れ、じんましん、発疹などの症状をみとめる場合もあります。また、極めてまれな頻度ですが、ショック、アナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応）、血小板減少性紫斑病をみとめる場合があります。

4 予防接種を受ける前に

（１） 一般的注意

気にかかることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。保護者が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

（２） 予防接種を受けることができない方

ア. 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃以上の場合）

イ. 重い急性疾患にかかっている方

ウ. このワクチンの成分によってアナフィラキシーをおこしたことがある方

エ. 免疫機能に異常があったり、免疫機能を抑える治療を受けている場合（免疫抑制剤など）

オ. その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ア. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- イ. 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ウ. 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- エ. 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- オ. このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方

(4) 接種を受けた後の注意事項

- ア. 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が
取れるようにしておきましょう。
- イ. 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ウ. 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、接種局所の異常反応や体調の変化を訴える
場合は速やかに医師にご相談ください。
- エ. このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要
があります。
- オ. 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- カ. 接種当日は激しい運動は避けてください。

5 副反応が起こった場合

予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることもあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、体調変化が現れた場合は、速やかに接種した医師（医療機関）の診察を受けてください。予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づき、国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

<問合せ>

大牟田市保健福祉部保健衛生課 電話:0944-41-2669